令和8年度　全国学力・学習状況調査の結果について

公　表　の　趣　旨

今後10年間の本市教育が目指すべき方向性とその施策を総合的かつ計画的に推進するための指針として、令和３年３月に「長岡京市第２期教育振興基本計画」を策定しました。今年度は計画６年目にあたります。本市公立学校の児童生徒の学力・学習状況について、保護者・市民の皆様にお伝えするとともに、更なる学力の向上に向けて、学校教育へのご支援、ご協力をお願いするものです。

調　査　の　概　要

1 調査の目的

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日　令和８年４月23日（木）　※中学校英語は下記期間中に実施。

・「読むこと」「書くこと」「聞くこと」：４月20日（月）～23日（木）
・「話すこと」：４月28日（火）～５月29日（金）

3 対象となる児童・生徒　小学校第６学年・中学校第３学年

※　義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校の該当学年を含む。

4 調査事項及び手法

（１）児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語（中学校のみ））

イ 質問調査

※小学校 児童質問調査、中学校 英語・生徒質問調査は、ICT端末を用いたオンライン方式で実施

（２）学校に対する質問調査

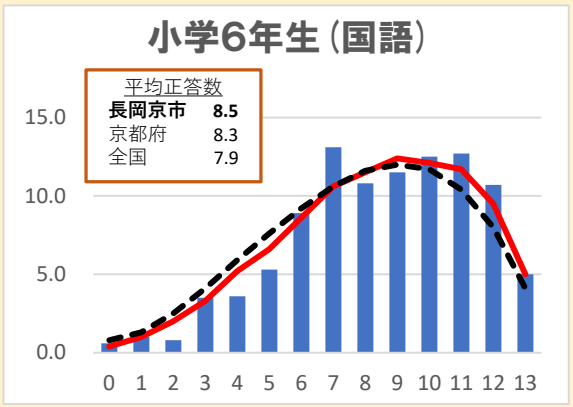
学 力 の 状 況

本市の小中学生の学力は高いレベルにあります

正答数分布グラフ　【小学校】国語:13問 算数:16問　【中学校】国語:15問 数学:16問　※英語:IRTを用いた結果

長岡京市　京都府　全国

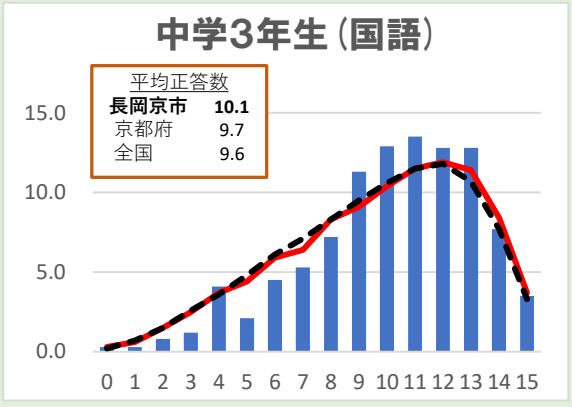
小学6年生（国語）



◆平均正答数の推移（小学６年生・国語、過去３回）

	R５	R6	R7
長岡京市	**10.2**	**10.1**	**9.9**
京 都 府	9.8	9.8	9.7
全　　国	9.4	9.5	9.4
問 題 数	14問	14問	14問

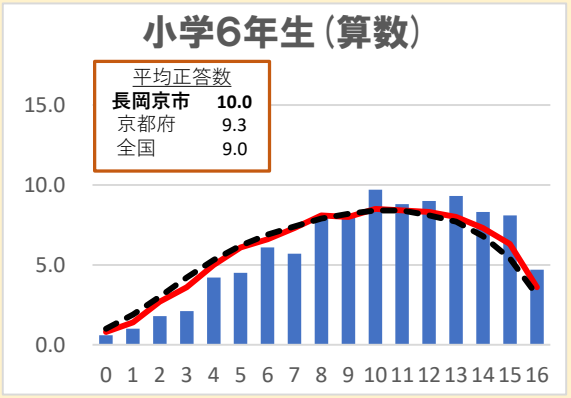
中学3年生（国語）



◆平均正答数の推移（中学３年生・国語、過去３回）

	R５	R６	R7
長岡京市	**11.2**	**9.4**	**8.0**
京 都 府	10.6	8.9	7.6
全　　国	10.5	8.7	7.6
問 題 数	15問	15問	14問

小学6年生（算数）



◆平均正答数の推移（小学６年生・算数、過去３回）

	R５	R6	R7
長岡京市	**11.1**	**11.2**	**10.0**
京 都 府	10.4	10.7	9.7
全　　国	10.0	10.1	9.3
問 題 数	16問	16問	16問

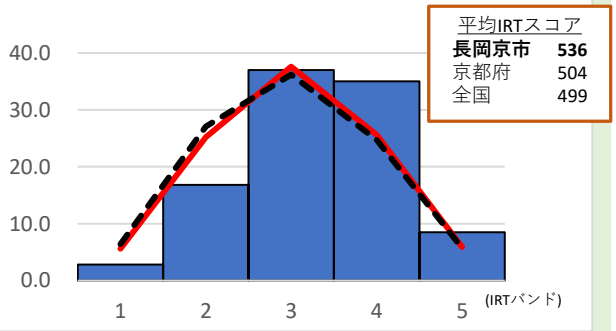
中学3年生（数学）



◆平均正答数の推移（中学３年生・数学、過去３回）

	R５	R６	R7
長岡京市	**8.8**	**9.4**	**8.1**
京 都 府	7.8	8.4	7.3
全　　国	7.6	8.4	7.2
問 題 数	15問	16問	15問

中学3年生（英語）※IRTバンド分布



・中学校 英語の調査は、令和８年度より、１人１台端末を用いたオンライン方式（CBT）で実施

・調査結果は、「聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと」の４技能を統合し、IRTスコアで表示

※前回調査(令和５年度)は、「話すこと」調査のみCBTで実施

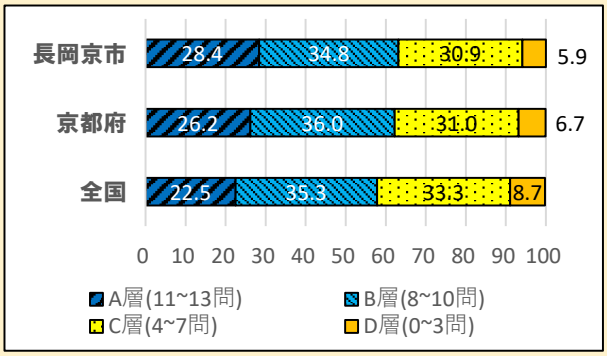
◇IRT

項目反応理論(IRT)を用いて、500を基準とするスコアで表示。個人の結果は5段階のIRTバンド(全国平均が3、最も高いバンドが5)で表示・返却。

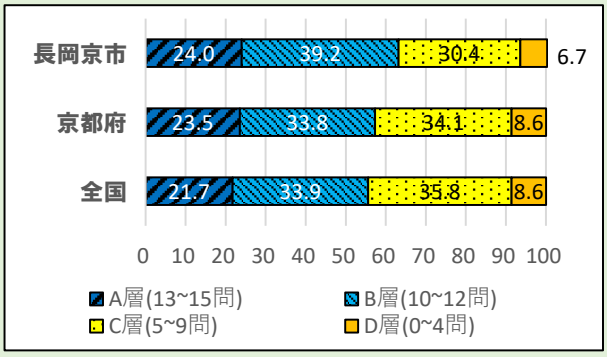
学力層の割合【単位:%】

全国の平均正答数以上の児童生徒をA層(上位)、B層(中上位)、平均正答数未満の児童生徒をC層(中下位)、D層(下位)にそれぞれ２分割しています。
中学校英語のみ、IRTバンド１～５(５が上位)の割合を示しています。

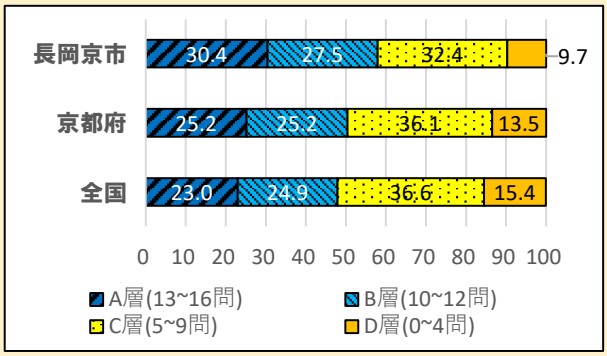
小学6年生・国語



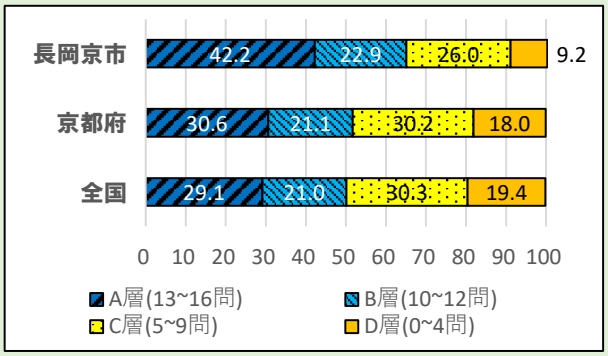
中学3年生・国語



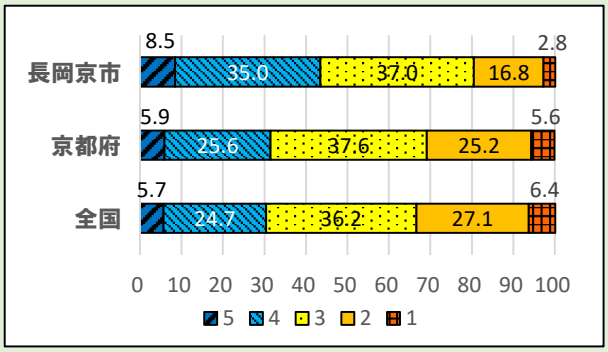
小学6年生・算数



中学3年生・数学



中学3年生・英語



前ページの正答数分布グラフを見ると、小学校、中学校ともに、全国や京都府と比較して、正答数の多い児童生徒の割合が高くなっています。

過去の調査結果も同様の傾向を示しており、本市の小中学生の学力は全国や京都府と比較して高いレベルにあるといえます。これは、ご家庭や地域の教育力、学校・家庭・地域の連携、学校教職員の努力、そして、何よりも子どもたちの頑張りによるものと考えています。

また、国語、算数・数学の学力層（A～D）の割合を見ると、全国や京都府の割合と比較して、D層の割合が低くなっています。また、中学校英語についても、IRTバンド２や１の割合が低くなっています。本市では、「D層を前年度より減少させる」ことを指標に掲げ、教科指導の充実と指導方法の改善に取り組んできましたが、今までの取組の成果が表れているものと考えています。子どもたちの更なる学力の向上を目指して、授業改善に取り組んでいきます。

※具体的な設問例は、４、５ページ目に掲載

令和8年度　具体的な設問例1～記述式問題～

算数・数学の調査では、日常的な場面を題材にしながら、数学的見方・考え方を活用して課題を解決したり、その過程や根拠を説明したりすることができるかを問う問題が複数出題されています。

中３数学では、クラス紹介の動画を撮影する場面を取り上げ、データ量に上限を設けた場合にどのくらいの時間撮影できるか、動画の時間とそのデータ量の関係について示したグラフを読み解き、説明することができるかをみる問題が出題されました。

大問７（２）

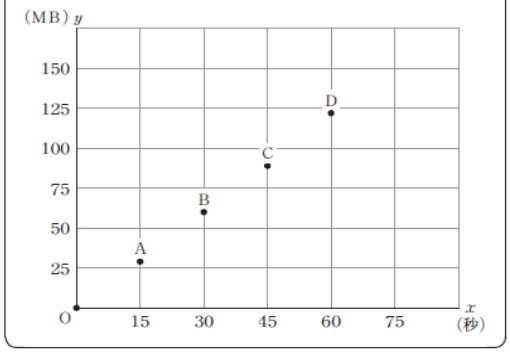


光希さんのクラスでは、クラス紹介の動画を撮影することになりました。撮影する動画のデータ量は1000MBまでにすることになっています。

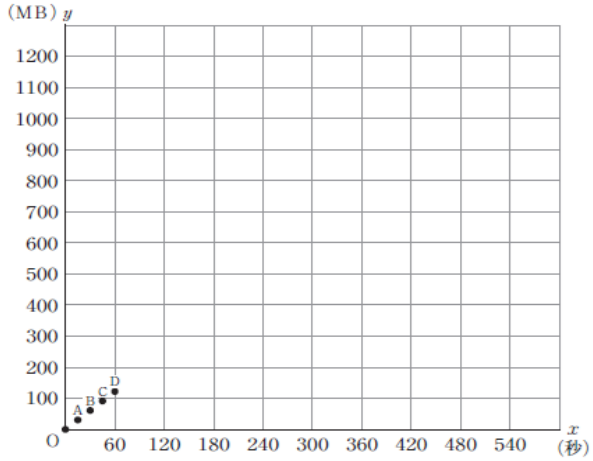
そこで、動画の時間によってデータ量がどのように変わるかを調べるために、同じ撮り方で時間だけを変えて動画を撮影し、動画の時間とそのデータ量を記録しました。そして、動画の時間がx秒のときのデータ量をyMBとして次のように表にまとめ、左下のグラフに表しました。

調べた結果

x（秒）	0	15	30	45	60
y（MB）	0	29	60	89	122



動画の時間とデータ量のグラフ



光希さんは、1000MBのデータ量で撮影できる動画の時間を調べるために、左上の**調べた結果**を右上のグラフに表しました。

動画の時間とデータ量のグラフにおいて、原点Oから点Dまでの点が一直線上にあるとし、動画の時間を長くしても、動画の時間とデータ量の値の組を座標とする点が同じ直線上にあると考えます。

このとき、データ量が1000MBになるときの動画の時間はおよそ何秒になるかを求める方法をx座標やy座標、xの値やyの値など、xやyを使って説明しなさい。ただし、実際に時間がおよそ何秒になるかを求める必要はありません。

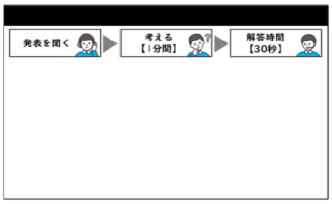
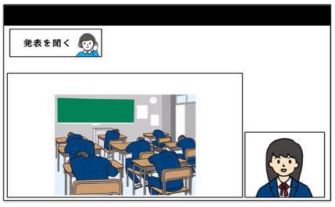
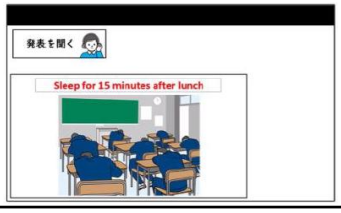
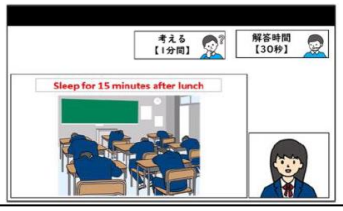
全国平均正答率が34.5%であった上記の設問において、本市の中学校の正答率は48.3%でした。この問題のように、思考力・判断力・表現力を測る記述式の設問は「数と式」「図形」「関数」「データの活用」それぞれの領域に１問ずつあり、知識・技能を測る短答式の設問に比べると正答率は低くなっているものの、いずれも全国や京都府と比べ、正答率は高くなっています。

令和8年度　具体的な設問例2～記述式問題～

英語の調査では、日常的な話題や社会的な話題について、聞いたり読んだりした内容の要点を捉えたり、自分の考えを理由をつけて述べたりすることができるかを問う問題が複数出題されています。

「話すこと」の調査では、「学校生活をよりよくする方法」についての話し合いで、「ランチタイムの後に15分の昼寝の時間を取り入れるのが良いのではないか」という意見に対して、自分の考えとその理由を説明することができるかをみる問題が出題されました。

大問１９

実際の画面	スクリプト
	あなたは、英語の授業でオンライン交流をしている中学生のかおりと「学校生活をよりよくする方法」について話し合っています。発表を聞き、かおりの意見に対する「**<u>あなたの考え</u>**」と「**<u>なぜそう考えるか</u>**」を、英語で答えましょう。
	はじめに、かおりの発表を聞きます。 次に、１分間で話す内容を考えます。
	Listen to her speech now. At school, I often become sleepy in the afternoon. I think we should sleep for 15 minutes after lunch because we will feel better and can study harder later. Some classmates agree with my idea, but other classmates don't agree because they want to talk with their friends more.
	My idea is we should sleep for 15 minutes after lunch. Do you think my idea is good? And why?
	Start thinking now. Start your answer now.

全国平均正答率が25.8%であった上記の設問において、本市の中学校の正答率は32.3%でした。「書くこと」「話すこと」それぞれの領域における、自分の考えと理由を述べる設問の正答率は、全国や京都府に比べて高く、各校で、知識・技能の定着だけでなく、それらを活用する学習に取り組んできた成果が出ているものと考えます。

身近な生活場面にとどまらず、社会的な話題に対しても意見をもち、表現ができる等、身に付ける資質・能力が社会生活で役に立つと子どもが実感できるよう、各教科において、引き続き課題解決型の授業を意識した授業実践に努めます。

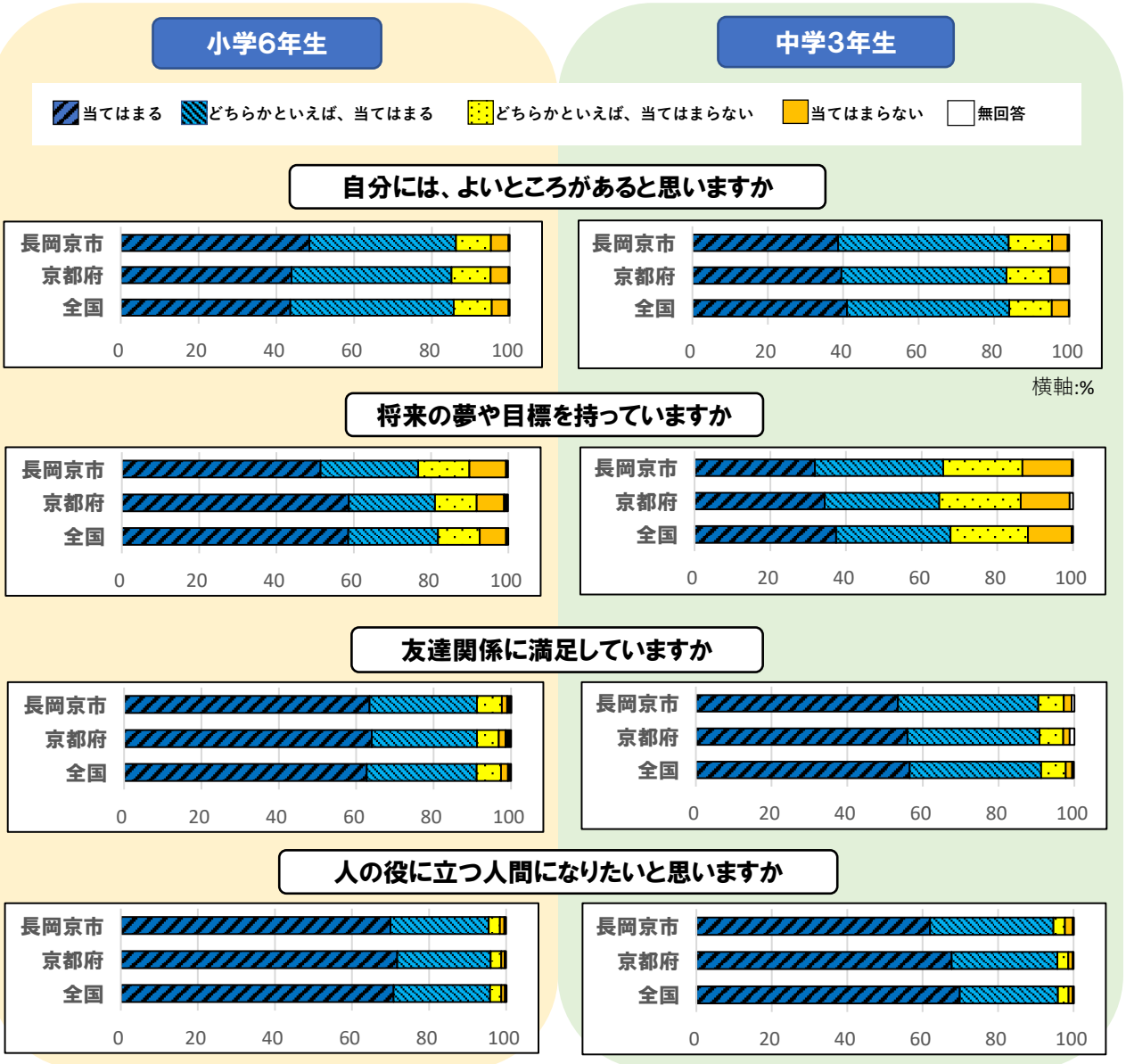
質問調査の結果から

学習指導要領では、新しい時代を生きる子どもたちに必要な力を「資質・能力の３つの柱」として整理しています。

A　実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」
B　未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力など」
C　学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性など」

国が令和５年に策定した「第４期教育振興基本計画」では、自己肯定感や自己実現、人とのつながりや協働性などを育み、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じたウェルビーイングの向上を求めています。

ウェルビーイングに関連する質問調査の結果は、質問項目によって多少の違いはあるものの、全国や京都府と同じような傾向を示しています。

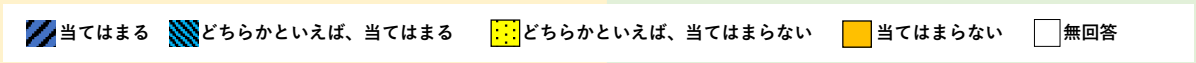


中央教育審議会答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』では、ＩＣＴを有効に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善により、学習指導要領にある３つの柱をバランスよく育むことを求めています。

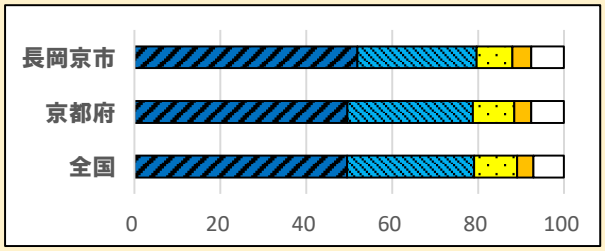
小学6年生

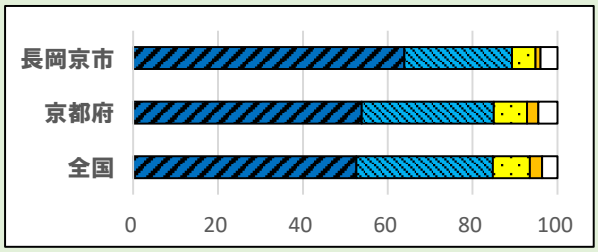
中学3年生

自分がICT機器を使って、（下記のことが）できると思いますか（ICT機器を活用する自信がある）

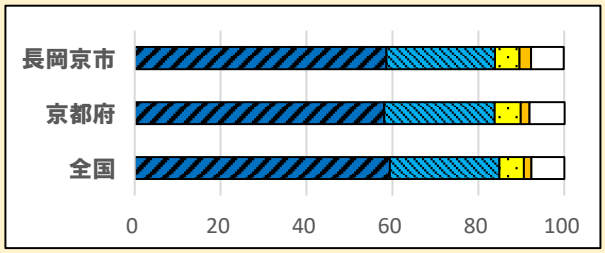


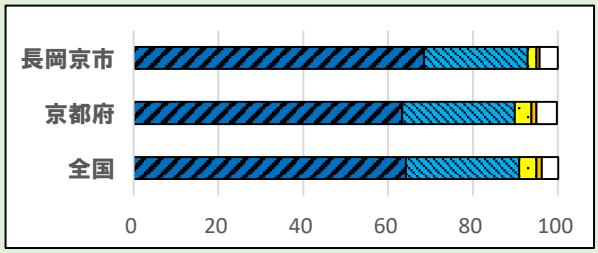
文章を作成する（文字、コメントを書くなど）こと



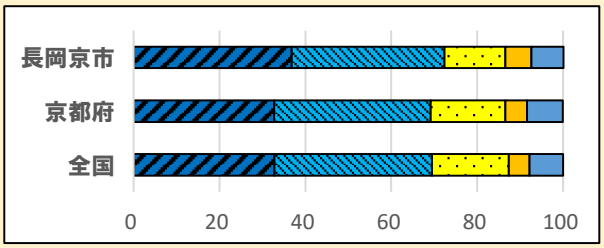


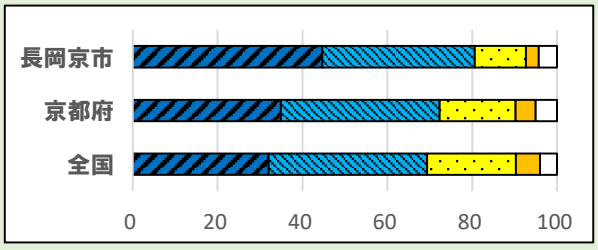
インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）こと



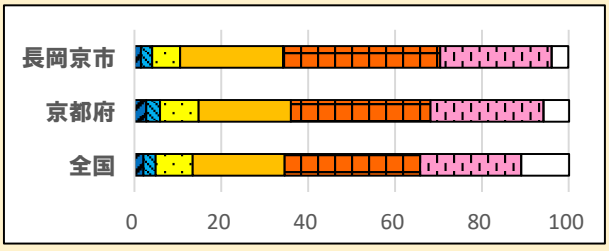


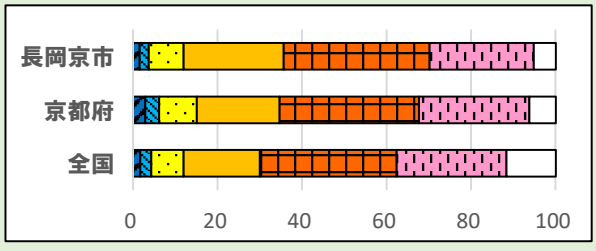
情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）こと

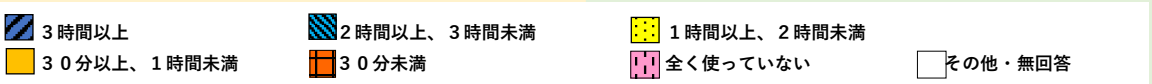




学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか



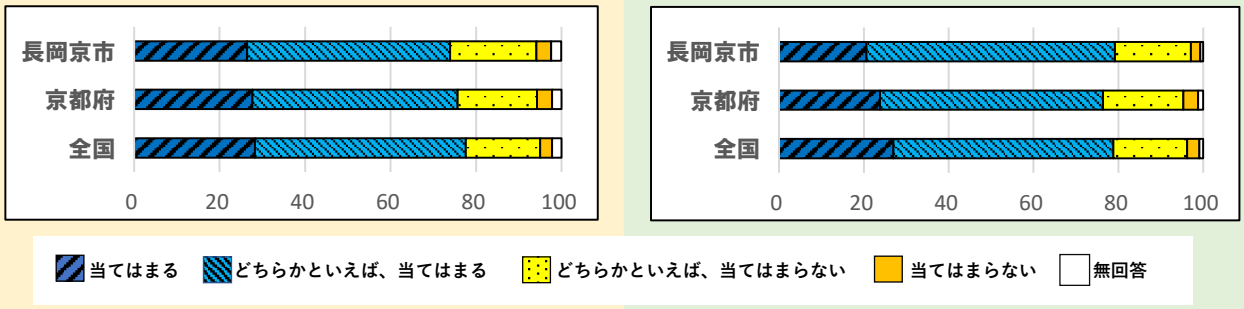




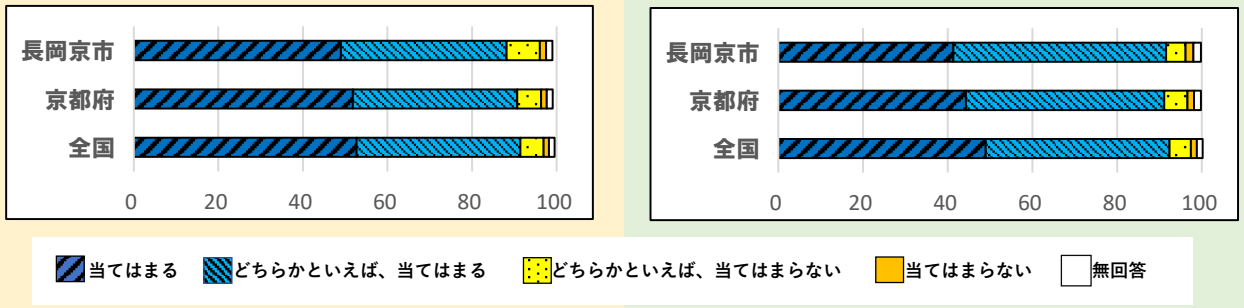
小学6年生

中学3年生

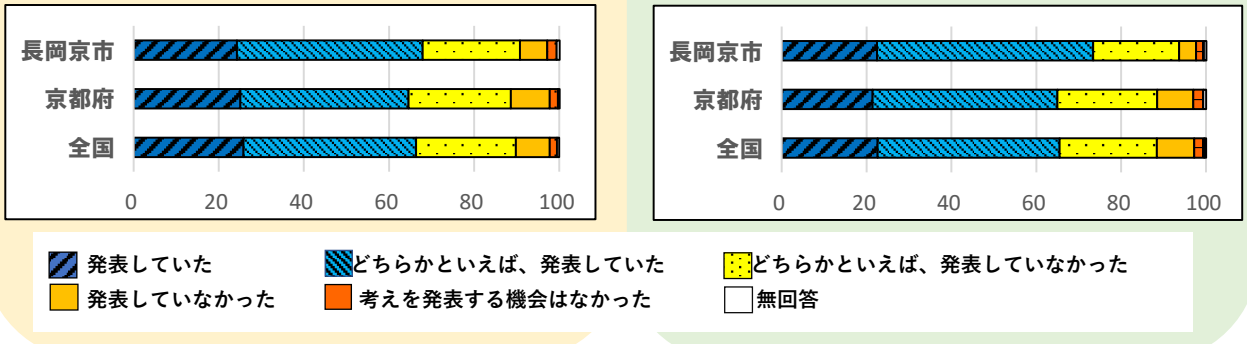
5年生まで（中学1、2年生のとき）に受けた授業で、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



5年生まで（中学1、2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



本市では、今年度もアナログとデジタルのベストミックスを追究し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に生かすことを目標にタブレット端末の活用を進めています。

質問調査の結果によると、児童生徒がＩＣＴ機器を様々な場面で自信をもって活用していることが分かります。また、小中学校ともに、授業において自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表している子どもの割合が全国や京都府よりも高くなっています。

今後も発達段階に応じたタブレット端末の活用を進めるとともに、学習指導要領がめざす資質・能力育成のため、主体的・対話的で深い学びの実現に努めていきます。